

一月二十七日(水)

平成二十八年 度 金沢学院大学 入学試験問題 (一般入試Ⅰ期)

国 語

(注意事項)

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから17ページまであります。

第2問途中から受験する学部によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

(解答上の注意)

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

と表示のある問いに対して

④と解答する時は、下記の(例)のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～9）に答えよ。

日本語を第二言語とする者が文章の善し悪しがまったくわからないのかというと、もちろんそんなことはまったくありません。(ア) 梶井基次郎や三島由紀夫の作品はいい文章というか、凝った文章だとすぐわかります。ただし、「気取っている」という感じはなかなかつかみにくいです。梶井基次郎『冬の日』を引用しましょう。

展望の北隅きたすみを支えている樅かしの並木なみきは、或る日は、その(イ)鋼鉄こうてつのような弾性だんせいで撓しない(ウ)踊りながら、風を揺りおろして来た。容貌ようぼうをかえた低地ひには(エ)カサコンと(オ)枯葉かれはが骸骨がいこつの踊りを鳴らした。

そんなとき蒼桐あおぎりの影は今にも消されそうにも見えた。もう日向とは思えない其処そこに、気のせい程ほどの影がまだ残っている。そしてそれは凧こがらしに追われて、(カ)砂漠さばくのような、其処では影の生きている世界の遠くへ、だんだん姿を掻き消してゆくのであった。

巧みな修辞と意表をつく表現によって、鮮烈に心象風景を描き出しています。成人してから日本語を覚えた者が読んでもすぐに美文だと気付きます。装飾的な文体と鮮やかな比喻は非母語の読者にとってわかりやすいものです。逐語訳しても、文体の美しさは損なわれません。

文学はことばの芸術です。芸術である以上、文章は美しくて A を与えなければなりません。そのためには、手垢てあかのついたことばを使うのは禁物です。誰も言ったことのないことばを使い、誰も書いたことのない文章で表現すると、同じ内容でも読者はあつと驚き、また感動するでしょう。(ハ) a (ニ)、誰もが青い空を見ると、すがすがしい気持ちになります。ただ、それをそのまま文章にしても文学にはなりません。「透き通るような青い空、なんときれいでしょう」ぐらいは誰でも書けるし、日々無数の人が口にしていてから、(ヘ) b (三)、手垢が付いていることばです。ところが、「青い空を見上げると、悲しくなる」と書くとき、何となく文学的に感じるでしょう。なぜそう感じるのかというと、意外な感情を表現しているからです。なぜ、悲しくなるのか、読み手はその気持ちを不思議に思い、その理由を知りたくなるでしょう。もしかすると、自分もそう感じたことがあるが、ただ自覚していなかったのかもしれない。そう考えるとわかるような気がします。もし、そのように思う人もいれば、文学的な表現として成り立つ土台が出来上がりません。逆にそのことばをどこかで見たことのある人はまったく文学的とは思いません。

このように、芸術は独創的でなければなりません。

(き) 厄介なのは、いわゆる繊細な文章です。幸田文の文章は詩情豊かできめ細かいことに定評がありますが、翻訳されてもいい文章になるかはかなり疑問です。詩情の豊かさは多少残るかもしれませんが、どちらかというと、その繊細さは訳文に伝わらないのではないかと思います。

よく「ことばのあや」と言います。日本語だと、当然、日本語の「ことばのあや」ということになります。(c) 、その「あや」がくせ者で、感覚的にわかってても、具体的に何を指すか、はつきりといえないことが多いです。ましてやそれを別の言語の「あや」に訳すのは、至難のわざです。

幸田文の文章は清新な印象があります。「清新」で「いい文章」と感じさせるのは何か、『黒い裾』の末尾の文章を例に挙げたいと思います。

広い庭のずっと奥まで重なった青葉から、きらきらと薫風^{くしんぷう}がわたって来た。千代の俄^{にわ}かづくろいの黒い裾へ爽^{さわや}かさが通って行った。葬式の、——人が死んだということの、——おちつきがここの屋の根におとずれはじめているなと感じた。

「きらきら」は古語では笑い声を修飾することができますが、現代語ではおもに視覚的な印象をあらわします。ところが、ここでは「薫風」が吹いてくる様子を描いています。(c) このような表現があるとは、思ってもみませんでした。しかし、そこが文章表現のオリジナリティであり、読者に「新鮮」だと感じさせる理由です。巧みに情景を描写しながら、あつと驚かせる効果があります。

爽やかさが「通って行った」というのもなかなか面白いです。よくわかる感覚ですが、それまで誰も思いつかなかった表現でしょう。単語の使い方も苦心のあとが見られます。「屋根」は手垢のついたことばですが、「屋の根」のように、少しだけ変えると、印象はがらりと変わります。そもそも「屋の根」は「屋根」ではない、というべきでしょう。このように、ことばをほんの少し変えるだけで、独特の雰囲気や表現の面白みを出すことができます。

(d) (c) 、そうしたオリジナリティは「翻訳」できるのでしょうか。前述の「きらきら」と「薫風」は日本語だからこそでできる修飾関係で、直訳すると文章にならないかもしれません。かりに「薫風」を the early summer breeze と英訳するとしましょう。「きらきら」を意味する radiantly は明らかに動詞 bloom(s) の修飾語になりません。

日本文学研究者で、翻訳者でもあるサイデンステッカーはこの段落を次のように訳しています。

A breeze came in through the deep green of the wide garden, and rustled at the hastily mended black kimono. Someone had died, and a calm — a funeral calm — was falling over the house.

いい訳ですが、「薰風」は消えてしまい、「きびきびび」とは「ちびちびび」とになりました。「屋の根」は素直に「house」に訳されています。(e)、幸田文の工夫は翻訳にまったく残らないのです。

ちなみに、あるアメリカの知人に雑談でそのことを話したら、無理して原文の「工夫」を伝えようとすれば、「きらきらと薰風がわたって来た」を The early summer breeze seemed to sparkle as if danced by にするのも一案だろう、と言いました。それがいい訳であるかどうか、原文のイメーヂを伝えたかどうかはともかくとして、訳者の解釈に基づく再創作になっているのはまちがいありません。

(張競『海を越える日本文学』による)

問1 傍線部(ア)で挙げられている小説家、梶井基次郎と三島由紀夫の作品を次の①～⑥の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は、梶井の作品＝、三島の作品＝。

- | | | |
|---------|-------|---------|
| ① 羅生門 | ② 金閣寺 | ③ 城の崎にて |
| ④ 伊豆の踊子 | ⑤ 檸檬 | ⑥ 坊っちゃん |

問2 空欄(a) (b) (c) (d) (e)に入れる語句として最も適当なものを、次の①～⑧の中から一つずつ選べ。

解答番号は a = 、 b = 、 c = 、 d = 、 e = 。

- | | | | |
|--------|--------|---------|--------|
| ① もっとも | ② いわば | ③ さらに | ④ つまりは |
| ⑤ たとえば | ⑥ ところで | ⑦ このように | ⑧ ところが |

問3 傍線部(イ)～(カ)で使われている修辞技法は何か。次の①～⑥の中から一つずつ選べ。なお、選択肢は何度使ってもよい。

解答番号は(イ)〓 8、(ウ)〓 9、(エ)〓 10、(オ)〓 11、(カ)〓 12。

- ① 直喩法 ② 中止法 ③ 擬人法 ④ 反復法 ⑤ 擬態法 ⑥ 倒置法

問4 空欄 A に入れるのに最も適当な語句を次の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は 13。

- ① あつと驚かせる効果 ② 清潔な感覚 ③ 新鮮な感動
④ 知的な言語センス ⑤ 先取りする思想 ⑥ きめ細かな配慮

問5 次の①～⑥の文は、本文の空欄 B に書かれていた文である。筋が通るように正しい順序に並べ替え、3番目、5番目の番号をそれぞれ

答えよ。解答番号は3番目〓 14、5番目〓 15。

- ① ただ、「独創的」は必要条件で、十分条件ではありません。
② 優れた修辞が翻訳されても消えないのはそのためです。
③ その意味では修辞はたんに形式だけではなく、内容とも緊密に関連しています。
④ 「独創的」でかつ美しくなければなりません。感動的な体験を与えてはじめて「ことばの芸術」といえます。
⑤ 文体も修辞もあくまでも感動的な体験を与える手段にすぎません。
⑥ ことばの芸術である文学も同じです。

問6 傍線部(キ)に「繊細な文章」とあるが、筆者のいう「繊細な文章」とはどのようなものか。次の①～⑥の中から適当でないものを一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 感覚的にはわかるが、曖昧な文章。
- ② 具体的に何を指しているか、わからない文章。
- ③ 「翻訳」ではなく、訳者の再創作になってしまうことが多い文章。
- ④ 日本語固有の単語で、該当する外国語の単語がない文章。
- ⑤ 文法の違いにより、訳しきれない表現が含まれている文章。
- ⑥ 作者独自の表現で、該当する外国語の表現が見つからない文章。

問7 傍線部(ク)に「このような表現」とあるが、この説明として最も適当なものを次の①～⑥の中から一つ選べ。解答番号は 17。

- ① もとは形容詞である語を副詞として使った表現。
- ② 古語での意味用法を、現代語にあてはめた表現。
- ③ 擬態語の使い方、故意に間違えて使った表現。
- ④ 手垢のついた表現を使った大胆で実験的な表現。
- ⑤ 修飾語と被修飾語の関係をずらしてみせた表現。
- ⑥ もと副詞である語に動詞を修飾させてみた表現。

問8 著者は、日本語非母語話者にとって、日本文学のどういふところが理解しやすく、また、どういふところが理解しにくいと述べているか。次の①～⑩のそれぞれについて、理解しやすいと述べているものに①、理解しにくいと述べているものに②をマークせよ。

解答番号は、

18

と

27

。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| <p>① 日本語の善し悪し</p> <p>② 凝った文章であること</p> <p>③ 気取っている感じ</p> <p>④ 修辞が巧みであること</p> <p>⑤ 表現が意表をついていること</p> <p>⑥ 美文であること</p> <p>⑦ 装飾的な文体であること</p> <p>⑧ 鮮やかな比喩の意味</p> <p>⑨ ことばのあや</p> | <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>18</td></tr></table> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>20</td></tr></table> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>22</td></tr></table> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>24</td></tr></table> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>26</td></tr></table>
<table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>19</td></tr></table> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>21</td></tr></table> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>23</td></tr></table> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>25</td></tr></table> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"><tr><td>27</td></tr></table> | 18 | 20 | 22 | 24 | 26 | 19 | 21 | 23 | 25 | 27 |
| 18 | | | | | | | | | | | |
| 20 | | | | | | | | | | | |
| 22 | | | | | | | | | | | |
| 24 | | | | | | | | | | | |
| 26 | | | | | | | | | | | |
| 19 | | | | | | | | | | | |
| 21 | | | | | | | | | | | |
| 23 | | | | | | | | | | | |
| 25 | | | | | | | | | | | |
| 27 | | | | | | | | | | | |

問9 本文後半で使われている語「薫風」(二重傍線部※)は、手紙の時候の挨拶としてよく使われる語である。これは何月の挨拶として使われる語か。最も適当なものを次の①～⑧の中から一つ選べ。解答番号は

28

。

- | | |
|--|--|
| <p>① 3月</p> <p>② 4月</p> <p>③ 5月</p> <p>④ 6月</p> <p>⑤ 7月</p> <p>⑥ 8月</p> <p>⑦ 9月</p> <p>⑧ 10月</p> | <p>① 3月</p> <p>② 4月</p> <p>③ 5月</p> <p>④ 6月</p> <p>⑤ 7月</p> <p>⑥ 8月</p> <p>⑦ 9月</p> <p>⑧ 10月</p> |
|--|--|

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。文学部の受験生は問1～6を、文学部以外の受験生は問1～8を解答すること。

「僕」はまだ売れていない芸人である。スパークスという名で相方と二人で漫才をやっている。熱海の花火大会で呼ばれて漫才を披露するが、客がまともに聞いてくれないので落ち込む。ところが、そこで通行人を指差しながら「地獄、地獄」と叫び続ける破天荒な芸人、あほんだらという芸名の神谷と出会う。舞台が終わった後、「僕」は神谷に誘われて居酒屋に行くことになる。

僕は先輩と一緒にお酒を呑んだことがなく、どうすればいいのか全然わからなかったのだが、神谷さんも先輩や後輩と呑んだことが今までにないようだった。

「あほんだら、って凄いな名前ですね」

「名前つけんの苦手やねん。いつも、親父が俺のこと、あほんだら、って呼ぶからそのままつけてん」

瓶ビールが運ばれてきて、僕は人生で初めて人に酒を注いだ。

「お前のコンビ名、英語で①カツコウええな。お前は父親になんて呼ばれてたん？」

「お父さん」

神谷さんは僕の眼を見たままコップのビールを一気に空け、それでもまだ僕の眼を真つすぐに見つめていた。

数秒の沈黙の後、②「です」と僕はつけくわえた。

神谷さんは黒眼をギョウと③シユウシユクさせて、「おい、びっくりするから急にボケんな。ボケなんか、複雑な家庭環境なんか、親父が阿呆なんか判断すんのに時間かかったわ」と言った。

「すみません」

「いや、謝らんでええねん。いつでも思いついたこと好きなように言うて」

「はい」

「その代わり笑わしてな。でも、俺が真面目に質問した時は、ちゃんと答えて」

「はい」

「もう一度聞くけど、お父さんになって呼ばれてたん？」

「オール・ユード・ニード・イズ・ラブです」

「お前は親父さんをなんて呼んでんの？」

「限界集落」

「お母さん、お前のことなんて呼ぶねん？」

「誰に似たんや」

「お前はお母さんを、なんて呼ぶねん？」

「誰に似たんやろな」

「会話になってもうとるやんけ」

ようやく、神谷さんが微笑んで、椅子の背もたれに背中をつけた。

「二人がかりで結構時間かかったな。笑いって、こんなに難しかったっけ？」

「僕も吐きそうになりました」

「お互いまだまだやな。(a) 呑もう」僕は酒を注ぐタイミングもわからずに、いつの間にか神谷さんは手酌で呑んでいた。

神谷さんは何度も「ここは俺が奢る」と繰り返していたので、これは半分払えということなのだろうと思い、「払います」と言ったら、「阿呆か、

芸人の世界では先輩が後輩に奢るのが当然なんや」と神谷さんは嬉しそうに言ったので、これが言ってみたかったのだなとわかった。

僕は誘って貰えたことが嬉しくてついつい質問をしたくなり、まず最初になぜ漫才の時、女言葉で叫んでいたのかを聞いた。

神谷さんは、「その方が新鮮やろ、必然性なんかいらんねん。じゃあ、女言葉を使ったらあかん理由はなんやねん？」と言った。

神谷さんは真剣な表情で僕の顔を覗き込んでいる。早く答えなくてはと焦る。

「聞いている人が、なぜこの人は男なのに女言葉で話しているのやろうと疑問に思うことによって、重要な話が頭に入りにくくなるからですかね」

と僕は真面目に答えた。

「お前大学出てるんか？」と神谷さんが不安そうに言ったので、「高卒です」と答えると、「ど阿呆、大学も出てへん奴が賢いふりすな」と僕に顔を近づけて頭を拳で殴る真似をした。

神谷さんは「人と違うことをせなあかん」ということを繰り返し言い、焼酎しよちゆうを五杯程呑み赤らんだ顔の中で両目が垂れだした頃には、どのような話の流れでそうなったのか、僕は神谷さんに「弟子にして下さい」と頭を下げていた。

それは決してふざけて言ったのではなく、心の底から溢あふれ出た言葉だった。

「いいよ」と神谷さんは僕の言葉を簡単に受け入れ、^③チヨウド、酒を運んできた店員に「今、ここで師弟関係を結んだので証人になるように」と言い、「はい、はい」と適当に受け流されていた。初めての経験であるはずなのに、やり方を知っているように振る舞う神谷さんを頼もしく思った。

^(七)この猥雑な風景を証人として、師弟関係の契りが結ばれたのである。

「ただな、一つだけ条件がある」と神谷さんは（ b ）意味あり気に切り出した。

「なんですか」

「俺のことを忘れずに覚えといて欲しいねん」

「もう死ぬんですか？」

神谷さんは僕の質問には答えず、瞬きもせず黒眼の動きを止めている。何かを考えている間、（ c ）僕の声が聞こえなくなるようだった。

「お前大学出てないんやったら、記憶力も悪いやろうし、俺のことすぐに忘れるやろ。せやから、俺のことを近くで見ても、俺の言動を書き残して、俺の伝記を作って欲しいねん」

「伝記ですか？」

「そや、それが書いたら^(八)免許皆伝や」

伝記を作るとはどういうことだろう。^(九)先輩とのつき合い方とはそういうものなのだろうか。

僕の所属している事務所は小さな会社だった。僕が子供の頃からテレビに出ている有名な^④ハイユウが一人いて、あとは舞台を中心に活動しているハイユウが数人いるだけで、芸人は僕達だけだった。学生時代に素人の漫才大会に出場した時、人のよさそうなおじさんに声をかけられ、それが今の事務所の社長だった。一組だけだと優遇されると思っていたが、そもそも仕事の数が少なく、（ d ）地方営業と小さな小屋でのライブがほとんどだった。

ずっと、僕は先輩が欲しかった。様々な事務所の若手芸人が集うライブの楽屋などで、先輩と後輩という関係性を持つ芸人同士の楽しいな会話が羨うらや

ましかった。僕達には楽屋での居場所がなく、いつも廊下の隅や便所の前で目立たないように息を潜めていた。

店員がラストオーダーを告げに来ると、「お姉さん、すまんけど、後二杯ずつだけいい？」と神谷さんが言った。

「いいですよ、観光ですか？」と店員に質問された神谷さんが、背筋を伸ばして「土地の神です」と意味のわからないことを誇らしげに答えると、店員さんが声を出して笑った。

「お前は本を読むか？」

「あまり読まないです」

神谷さんは眼を見開き、そう答えた僕のTシャツのデザインを^⑤ギョウシしてから、僕の顔に視線を移し、深く頷いて「読めよ」と言った。

花火大会が終わったのだろう、店の戸を開けて店内を覗く人が何人もいて、その度に店員が今日はもう閉めるのだと断った。

「こんな日なんて、何時までも開けといたら儲かんのにな」

神谷さんはそう言ったが、店の奥で人の出入りがあったのでおそらく地元の住人達による打ち上げ会場にでもなるのだろう。

「俺の伝記を書くには、文章を書けんとかかんから本は読んだ方がいいな」

神谷さんは本気で僕に伝記を書かせようと思っているのかもしれない。

僕は本を積極的に読む習慣がなかったが、（ e ）読みたくなった。神谷さんは早くも僕に対し強い影響力を持っていた。（キ）この人に褒められたい、この人には嫌われたくない、そう思わせる何かがあった。

（又吉直樹『火花』による）

問1 傍線部（ア）「です」と僕はつけくわえた」とあるが、この表現が意味することとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 29。

- ① とりあえず丁寧語を使い、先輩に対しての礼儀を知っていることを示そうとしている。
- ② 黙っている先輩による心理的な圧迫感に負けないように、自分を鼓舞しようとしている。
- ③ この場に漂う空気になじめない言葉を、細心の注意を払って慎重に選ぼうとしている。
- ④ ボケようとしてみたが先輩の反応に不安になり、恐る恐るボケる意思表示をしている。
- ⑤ 先輩に自分のボケが正確に伝わっていないのではないかと考え、駄目押しをしている。

問2 傍線部（イ）「僕も吐きそうになりました」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 30。

- ① 自分の笑いを先輩が理解してくれるだろうという期待が徐々に虚しいものになっていったから。
- ② 自分の言葉が先輩を傷つけてしまったと思い、強い自責の念にさいなまれたから。
- ③ 先輩の優しい忠告を無視して悪ふざけを始めてしまったことを、今さらながら激しく後悔したから。
- ④ 先輩に嫌われてはいけない、という気持ちだけが空回りして焦りが募ったから。
- ⑤ 先輩との待ったなしの笑いの真剣勝負となり、極度の集中と緊張を強いられたから。

問3 傍線部(ウ)「必然性」、傍線部(オ)「免許皆伝」の本文中の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選べ。

解答番号は、(ウ) 〓 31、(オ) 〓 32。

(ウ) 必然性

- ① 筋の通った根拠
- ② 洗練された方法
- ③ 専門的な知識
- ④ 客観的な事実
- ⑤ 冷静な判断

(オ) 免許皆伝

- ① 弟子として面倒をみてやること
- ② 本格的な芸の修業が可能になること
- ③ 芸人として自活できるということ
- ④ 自分の後継者として認めること
- ⑤ 弟子としての義務から解放されること

問4 傍線部(エ)「この猥雑な風景を証人として」とあるが、この意味として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 33。

- ① このごたごたした居酒屋のいい加減な店員であっても、証人に変わりはないと妥協して
- ② この居酒屋にたまたま居合わせた、見ず知らずの雑多な客たちすべてを証人と勝手に見立てることで
- ③ このごちゃごちゃとして騒がしい居酒屋の風景を、記念として心に刻むことによって
- ④ この偶然入ったばつとしない居酒屋で、お互いに酔って意気投合したことに深い縁を感じることで
- ⑤ この下品で雑然とした居酒屋こそが、今の二人に似合っているとそれぞれが自然に納得したので

問5 傍線部(カ)「先輩とのつき合い方とはそういうものなのだろうか」とあるが、ここでの「そういうもの」の内容として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 34。

- ① 先輩は絶対の存在で逆らうことは許されず、言われたことを無批判にひたすら忠実にこなすしかないということ。
- ② 先輩のさびしさや不安を癒す存在として、先輩に常に自信や勇気を与えるような反応をしなければならないこと。
- ③ 意味や意図のわからないことでも、先輩を信じてそれらを丸ごと受け入れ、一生懸命にやってみるということ。
- ④ 先輩の生き方に関心を持ち、少しでも詳しく知ろうと努力しなければ、先輩のレベルに達することができないということ。
- ⑤ 先輩の言動の中には自分の成長につながる大きなヒントが隠されていると考え、その一挙手一投足に注意を払わねばならないということ。

問6 傍線部(キ)「この人に褒められたい、この人には嫌われたくない、そう思わせる何かがあった」とあるが、この文章全体で「僕」が語ろうとしている神谷さんの姿について最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 35。

- ① 学歴コンプレックを抱え、お笑いの世界で何とかそれを克服しようと思死になっている痛々しさが感じられる人物。
- ② 世間の常識に捉われないおおらかさをもち、他人を包み込み癒してくれる限りない優しさを持った人物。
- ③ 自意識にさいなまれることなく、子どものような自己顕示欲を素直に表現できる嫌味のない人物。
- ④ 笑いという武器を磨いて、社会のルールや固定観念を覆そうとする野望を秘めたエネルギーが豊富な人物。
- ⑤ 一途に自分の目ざす笑いを追い求める純粹で鋭敏すぎるところが、孤立を招く危うさとしても感じられる人物。

【以下の問7～問8は、文学部以外の受験生が解答せよ。文学部の受験生は、第3問（古文）を解答せよ。】

問7 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 36 ～ 40。

① カツコウ 36

① コウセン的な性格。

② コウゲキは最大の防御。

③ 社長からコウロウ賞をもらう。

④ 親もコウニンの仲。

⑤ コウガンの美少年。

② シュウシユク 37

① 大臣にシュウニンする。

② シュウギンを解散する。

③ 全集にシュウロクされていない作品。

④ ユウシュウの美を飾る。

⑤ シュウビを開く

③ チョウド 38

① 一石二チヨウ。

② 興奮で顔面がコウチヨウする。

③ ピアノのチヨウリツを行う。

④ 戦時中、兵器工場にチヨウヨウされた。

⑤ ラクチヨウの多い本。

④ ハイユウ 39

① ニュースを全世界にハイシンする。

② ハイクと短歌の雑誌。

③ ハイニン罪に問われる。

④ ハイキ管が詰まる。

⑤ ハイシヤ復活戦。

⑤ ギョウシ 40

① センギョウ主婦。

② ギョウカンを読む。

③ フツギョウに山小屋を出発した。

④ 血液がギョウコする。

⑤ びつくりギョウテン。

問8 空欄（ a ）（ ）（ e ）に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～⑧の中から一つずつ選べ。

解答番号は a 〓 41、 b 〓 42、 c 〓 43、 d 〓 44、 e 〓 45。

① 無性に

② おそらく

③ 何やら

④ 取りあえず

⑤ やつとこのことで

⑥ たまに

⑦ ほとほと

⑧ もっぱら

【以下は文学部の受験生のみ解答せよ。】

第3問 次は、頭中将（藤原齊信）との間で交わした清少納言による当意即妙の応酬が、宿直所の男性官人たちの評判を呼び、清少納言自身に「草の庵」というあだ名がついたという「我ぼめ」のエピソードの一つである。これを読んで後の問い（問1～3）に答えよ。

炭櫃のもとにゐたれば、そこにまた、（女房達が）あまたゐて物など言ふに、「なにがし候ふ」といと（イ）はなやかに言ふ。「あやし。いつのまに何事のあるぞ」と問はずれば、主殿司なりけり。「ただこもとに入つてならで申すべき事なむ」と言へば、さし出でて、言ふ事、「これ頭の殿（頭中将）の奉らせたまふ。御返事とく」と言ふ。いみじくにくみたまふに、いかなる文ならむと思へど、ただいまいそぎ見るべきにもあらねば、「（ウ）いね。いま聞こえむ」とて、懐に引き入れて、なほなほ人の物言ふ、聞きなどする、すなはち帰り来て、「『さらば、そのありつる御文を給はりて来』となむ仰せらるる。とくとく」と言ふが、（注一）「いをの物語」なりやとて、見れば、青き薄様に、いと清げに書きたまへり。心ときめきしつるさまにもあらざりけり。「（A）蘭省の花の時錦帳の下」と書いて、「末はいかに、末はいかに」とあるを、「いかにかはすべからむ。御前（定子中宮が）おはしまさば、御覽せさすべきを、（B）これが末を知り顔に、たどたどしき真名書きたらむもいと見苦し」と思ひまはすほどもなく、責めまどはせば、ただその奥に、炭櫃に消え炭のあるして、「草の庵を誰か尋ねむ」と書きつけて取らせつれど、また返事も言はず。みな寝て、つとめていととく局に下りたれば、（注三）源中将の声にて、「（エ）ここに草の庵やある」と、おどろおどろしく言へば、「あやし、などてか、人げなきものはあらむ。（オ）『玉の台』ともとめたまはしかば、いらへてまし」と言ふ。

『枕草子』による

(注) 1 『いをの物語』…未詳。二類本『いせの物語』。一説『魚の物語』。また一説、前文を「言ふ」で切り『かいをの物語』とも。

2 「蘭省の花の時錦帳の下」…この句は『白氏文集』に出てくる。「蘭省」とは中国の尚書省・御史台の異称。

3 源中将…源宣方。左大臣重信の息。正暦五年（九九四）右中将。

問1 傍線部(ア)「炭櫃のもとにゐたれば」、(イ)「はなやかに」、(ウ)「いね。いま聞こえむ」、(エ)「ここに草の庵やある」、(オ)「『玉の台』と
もとめたまはしかば、いらへてまし」の語句の意味として、最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は (ア) 〓 36、(イ) 〓 37、(ウ) 〓 38、(エ) 〓 39、(オ) 〓 40。

(ア) 炭櫃のもとにゐたれば 36

- ① 炭櫃の下にくつろいでいたところ
- ② 炭櫃の上に座っていると
- ③ 炭櫃の傍に立っていると
- ④ 炭櫃の傍に座っていたところ
- ⑤ 炭櫃の傍に集まっている

(イ) はなやかに 37

- ① 声高にはつきりと
- ② 男らしい声で
- ③ なまめかしくたおやかに
- ④ 格調高い声で
- ⑤ いばった様子で

(ウ) いね。いま聞こえむ 38

- ① さあ、さし当たったの事を聞きましょう。
- ② 行きなさい。そのうちにお話を聞きますよ。
- ③ 行きなさい。押っつけお返事を申し上げます。
- ④ さあ、いまにお返事を聞きましょう。
- ⑤ 行きなさい。さきほどお返事を申し上げました。

(エ) ここに草の庵がある 39

- ① ここに粗末な庵が建っていました。
- ② 近くに草の仮屋があります。
- ③ どこに草葺きの粗末な家がありますか。
- ④ ここに草の庵はいますか。
- ⑤ どこかに草の庵はいませんか。

(オ) 『玉の台』とともめたまはしかば、いらへてまし 40

- ① 『玉の台』と探したなら、きつとお返事しましたのに。
- ② 『玉の台』とお探しあそばしたなら、きつとお返事しましたのに。
- ③ 『玉の台』を買ってくださいましたなら、きつとお返事しましたのに。
- ④ 『玉の台』をせがんでくれたなら、きつとお返事をさしあげましたのに。
- ⑤ 『玉の台』を求めれば必ず、いやいやながらもお返事はいたします。

問2 傍線部（A）の問いは、『白氏文集』に出てくる「蘭省の花の時錦帳の下 廬山の雨の夜草庵の中」という句を知っているかどうか問うものであるが、この句全体の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は 41。

① 長安にいる友人よ、君たちは今頃宮中であつて錦の帳の下で華麗な生活をしていることであろう。それにひきかえ、私は江州左遷の身で、廬山の草堂の中、一人寂しく、夜の雨音を聞きながら都を思い出していることだ。

② 長安にいる友人たちは今、蘭の花の咲き乱れる時を省みて錦の帳を下ろしていることだろう。それにひきかえ、私は廬山の雨に打たれながら草庵の中で、濡れた花を楽しんでいることだ。

③ 長安にいる友人たちはすでに、華やかな時代を終わりその反省として帳を下ろして生活している。私は同様に江州左遷の身で、廬山の草堂の中で、一人寂しく夜の雨音を聞きながら都を懐かしんでいることだ。

④ 長安にいる友人たちよ、君たちははもう、宮中の花を取り仕切る官庁で錦の帳を下ろしているのかい。私はいま、雨の降る廬山の草庵で、君たちに送る蘭の花を育てているよ。

⑤ 朝廷にお仕えする友人たちはみな、蘭の花の時期は錦の帳を下ろして暮らし、その後雨の降る廬山に来て、粗末な庵で雨宿りをしている。

問3 傍線部（B）のように「思ひまは」したのは何故か。最も適切だと思われる理由を、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答番号は 42。

① 対になる句を知ったかぶりに書くのは、たいそう不作法な返事の仕方だから。

② 何でも知ったかぶりをするのは、人間的に恥ずかしい行いだから。

③ 真名を書き散らすのは、風雅に欠けるから。

④ 漢詩を一応は学んでいるがまだ未熟で見苦しいから。

⑤ 漢詩に関する知識は女子のたしなみの範囲外であるから。